



活断層って何なの

地下で岩ばんのずれができる

がけや切り通しなどで、いろいろな色の土や岩石が、層になって重なっている所を見ることがあります。このような土や岩石の層を、地層といいます。この地層の中に、地層がとちゅうで切れて、左右がくいちがっている所があります。この地層のくいちがいを、断層といいます。

地面の下の方は、岩ばんという、かたい岩のかたまりからできています。地震がよく起こる所では、岩ばんの中に、おしつける力や引っ張る力、横にずれようとする力が、はたらいています。

このような力が、少しずつたまっていくと、あるとき一気に、岩ばんに割れ目が走り、岩ばんがずれてしまいます。このずれが断層です。

100万年ぐらい前までにできた断層が活断層

岩ばんの中に断層ができるときに、地震が起こります。大きな地震が起こると、地下の断層の一部が、地上にも現れることがあります。

地震がよく起こるのは、陸地や海底の、地下数キロメートルから、数百キロメートルまでの所です。

地下でできた断層の中で、100万年ぐらい前までの間に動いて、ずれができた断層を活断層とよんでいます。ほとんどの地震は、この活断層で起こります。

(監修・国司 真)

